

環境大臣賞

1. 団体賞

富山市科学博物館附属富山市天文台（富山県富山市）

昭和 31 年、日本で 3 番目の公開天文台として開館して以来、60 年にわたり広く市民に宇宙や星空に対する関心を高める活動を行ってきた。

市民に開かれた天文台、自然とともにある天文台を活動理念にかかげ、夜間定期観察会や特別観測会等で実際の星空を観察する場を年間 240 日以上提供し、学校団体や一般の来館者に対して、天体の観測を通して良好な大気環境を保全することの大切さを訪れる人に伝え続けている。

野鳥保護区に立地し、周囲の緑に溶け込む建物や、来館者には駐車場から徒歩やレンタサイクルを利用してもらうなど、自然環境に配慮した運営を行っている。

2. 個人賞

かわぞえ 川添 あきら 晃氏（高知県南国市）

県立芸西天文学習館の講師として、学習館発足時から 35 年間指導され、多数の天文愛好者を育てた。

学生時代から地学や天体など地球や宇宙の成り立ちに関心を持って学び、高校教員として生徒達に地学を指導してきた。また、県教育センターにおいては指導者の育成に努めてきた。

地域の小学生や住民の方々に星座や惑星などの観測を通して、年々進む自然界や夜空の汚れなど環境問題の指導にも積極的に取り組んできた。

全国協議会会長賞

1. 団体賞

小郡市天文スタッフ（福岡県小郡市）

小郡市生涯学習センター内の天体ドームや小学校等において星空の観望会を企画・実施し、来場者に対して星空の美しさ・宇宙の神秘等についての普及・啓発活動を熱心に取り組んでいる。

スタッフによる勉強会や市の事務局との意見交換会を定期的を開催し、スタッフの資質向上や天体ドーム活用の普及・改善等に努めている。

新聞や専門誌に積極的に情報発信（投稿等）を行い、天体観測や光環境（光害）に関する啓発を行っている。

2. 個人賞

きしむら すすむ
岸村 進氏（山口県岩国市）

平成5年の科学センター館長就任以来、新たに天体クラブを創設し、併せて環境教育活動を行っており、小中学校へ天体望遠鏡を持参し出前授業を行い、各地域の子どもに天体観測を普及させた。

平成16年度にNPO法人錦川環境教育学会の設立時は中心的な役割を担い、同会の活動テーマ「科学教室等を通じて環境問題を考える」の主旨により、「水辺の教室」「科学教室」など小学生とその保護者に環境の大切さを教えている。

岩国市・和木町小中学校理科教員研修会での講演を通じて教職員の支援を行っている。